

RENESAS TECHNICAL UPDATE

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24 豊洲フォレシア
ルネサス エレクトロニクス株式会社

問合せ窓口 <https://www.renesas.com/jp/ja/support/contact/>

製品分類	MPU & MCU	発行番号	TN-RL*-A0111A/J	Rev.	第1版
題名	誤記訂正通知 RL78/L1A ユーザーズマニュアル Rev.1.11 の記載変更		情報分類	技術情報	
適用製品	RL78/L1A グループ	対象ロット等 全ロット	関連資料	RL78/L1A ユーザーズマニュアル ハードウェア編 Rev.1.11 R01UH0636JJ0111 (Nov.2022)	

RL78/L1A ユーザーズマニュアル ハードウェア編 Rev.1.11 (R01UH0636JJ0111) において、下記訂正がございます。

今回通知する訂正内容

訂正箇所	該当ページ	内容
8.3.4 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1)	p.320	誤記訂正
図8-22 リアルタイム・クロック2の読み出し手順	p.334	誤記訂正
図8-23 リアルタイム・クロック2の書き込み手順	p.335	誤記訂正
35.3.2 電源電流特性	p.998 ~ p.1001	誤記訂正

ドキュメント改善計画

本訂正内容については、次回ユーザーズマニュアル改版時に修正を行います。

ユーザーズマニュアルの訂正一覧

No	訂正内容と該当箇所			本通知での 該当ページ
	ドキュメント No.	和文	R01UH0636JJ0111	
1	8.3.4	リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1)	p.320	p.3
2	図8-22	リアルタイム・クロック2の読み出し手順	p.334	p.4
3	図8-23	リアルタイム・クロック2の書き込み手順	p.335	p.4
4	35.3.2	電源電流特性	p.998 ~ p.1001	p.5 ~ p.7

誤記訂正の該当箇所は、誤)太字下線、正)グレー・ハッチングで記載します。

発行文書履歴

RL78/L1A ユーザーズマニュアル Rev.1.11 誤記訂正通知 発行文書履歴

文書番号	発行日	記事
TN-RL*-A0111A/J	2023年1月19日	初版発行 訂正一覧の No.1 ~ No.4 の誤記訂正 (本通知です。)

1. 8.3.4 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ 1 (RTCC1)

(p.320)

誤)

図8-8 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1) のフォーマット (3/3)

RWST	リアルタイム・クロック2 のウェイト状態フラグ
0	カウンタ動作
1	カウンタ値読み出し、書き込みモード中

RWAITビットの設定が有効であることを示すステータス・フラグです。
 カウンタ値の読み出し、書き込みは、このフラグの値が1になっていることを確認したあとで行ってください。
 RWAITビットに0を設定しても、カウンタ書き込み動作中はRWSTビットは0になりません。書き込み動作完了後、0になります。

RWAIT	リアルタイム・クロック2のウェイト制御
0	カウンタ動作設定
1	SEC~YEARカウンタ停止設定。カウンタ値読み出し、書き込みモード。

カウンタの動作を制御します。
 カウンタ値を読み出し、書き込みを行う際は必ず“1”を書き込んでください。
 カウンタ(16ビット)は動作を継続するので、1秒以内に読み出しや書き込みを終了し、0に戻してください。
 RWAIT = 1に設定後、カウンタ値の読み出し、書き込みが可能(RWST = 1)となるまで最大1クロック(frTC)の時間がかかります。^(注1, 2)RWST = 1になっていることを確認したあとカウンタ読み出し、書き込みを行ってください。
 カウンタ(16ビット)のオーバーフローがRWAIT = 1の時に起きた場合は、オーバーフローが起きたことを保持してRWAIT = 0になったあと、カウント・アップします。
 ただし、秒カウント・レジスタへの書き込みを行った場合は、オーバーフローが起きたことを保持しません。

正)

図8-8 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1) のフォーマット (3/3)

RWST	リアルタイム・クロック2 のウェイト状態フラグ
0	カウンタ動作
1	カウンタ値読み出し、書き込みモード中

RWAITビットの設定が有効であることを示すステータス・フラグです。
 カウンタ値の読み出し、書き込みは、このフラグの値が1になっていることを確認したあとで行ってください。
 RWAITビットに0を設定しても、カウンタ書き込み動作中はRWSTビットは0になりません。書き込み動作完了後、0になります。

RWAIT	リアルタイム・クロック2のウェイト制御
0	カウンタ動作設定
1	SEC~YEARカウンタ停止設定。カウンタ値読み出し、書き込みモード。

カウンタの動作を制御します。
 カウンタ値を読み出し、書き込みを行う際は必ず“1”を書き込んでください。
 カウンタ(16ビット)は動作を継続するので、1秒以内に読み出しや書き込みを終了し、0に戻してください。アラーム割り込みを使用するときに、カウンタの読み出し／書き込みを行う場合は、RTCC0レジスタのCT2~CT0ビットを010B(1秒毎に定周期割り込み発生)にして、RWAIT = 1からRWAIT = 0までの処理を次の定周期割り込みが発生するまでに行ってください。
 RWAIT = 1に設定後、カウンタ値の読み出し、書き込みが可能(RWST = 1)となるまで最大1クロック(frTC)の時間がかかります。^(注1, 2)RWST = 1になっていることを確認したあとカウンタ読み出し、書き込みを行ってください。
 カウンタ(16ビット)のオーバーフローがRWAIT = 1の時に起きた場合は、オーバーフローが起きたことを保持してRWAIT = 0になったあと、カウント・アップします。
 ただし、秒カウント・レジスタへの書き込みを行った場合は、オーバーフローが起きたことを保持しません。

2. 図8-22 リアルタイム・クロック2の読み出し手順 (p.334)

誤)

- 注 1. カウンタ停止(RTCE = 0)時は RWST = 1 になりません。
 注 2. STOP モードに移行する前には、必ず RWST = 0 であることを確認してください。

注意 RWAIT = 1 から RWAIT = 0 とするまでの処理を 1 秒以内で行ってください。

備考 SEC, MIN, HOUR, WEEK, DAY, MONTH, YEAR の読み出しの順番に制限はありません。
 また、すべてのレジスタを設定する必要はなく、一部のレジスタのみを読み出しても構いません。

3. 図8-23 リアルタイム・クロック2の書き込み手順 (p.335)

誤)

- 注 1. カウンタ停止(RTCE = 0)時は RWST = 1 になりません。
 注 2. STOP モードに移行する前には、必ず RWST = 0 であることを確認してください。

注意 1. RWAIT = 1 から RWAIT = 0 とするまでの処理を 1 秒以内で行ってください。
 注意 2. カウンタ動作中(RTCE = 1) に SEC, MIN, HOUR, WEEK, DAY, MONTH, YEAR レジスタを書き換える場合は、INTRTC を割り込みマスク・フラグ・レジスタで割り込み処理禁止にしてから書き換えてください。また、書き換え後に WAFG フラグ、RIFG フラグ、RTCIF フラグをクリアしてください。

備考 SEC, MIN, HOUR, WEEK, DAY, MONTH, YEAR の読み出しの順番に制限はありません。
 また、すべてのレジスタを設定する必要はなく、一部のレジスタのみを読み出しても構いません。

正)

- 注 1. カウンタ停止(RTCE = 0)時は RWST = 1 になりません。
 注 2. STOP モードに移行する前には、必ず RWST = 0 であることを確認してください。

注意 RWAIT = 1 から RWAIT = 0 とするまでの処理を 1 秒以内で行ってください。アラーム割り込みを使用するときに、カウンタ読み出しを行う場合は、RTCC0 レジスタの CT2~CT0 ビットを 010B (1 秒毎に定周期割り込み発生) にして、RWAIT = 1 から RWAIT = 0 までの処理を次の定周期割り込みが発生するまでに行ってください。

備考 SEC, MIN, HOUR, WEEK, DAY, MONTH, YEAR の読み出しの順番に制限はありません。
 また、すべてのレジスタを設定する必要はなく、一部のレジスタのみを読み出しても構いません。

正)

- 注 1. カウンタ停止(RTCE = 0)時は RWST = 1 になりません。
 注 2. STOP モードに移行する前には、必ず RWST = 0 であることを確認してください。

注意 1. RWAIT = 1 から RWAIT = 0 とするまでの処理を 1 秒以内で行ってください。アラーム割り込みを使用するときに、カウンタ書き込みを行う場合は、RTCC0 レジスタの CT2~CT0 ビットを 010B (1 秒毎に定周期割り込み発生) にして、RWAIT = 1 から RWAIT = 0 までの処理を次の定周期割り込みが発生するまでに行ってください。
 注意 2. カウンタ動作中(RTCE = 1) に SEC, MIN, HOUR, WEEK, DAY, MONTH, YEAR レジスタを書き換える場合は、INTRTC を割り込みマスク・フラグ・レジスタで割り込み処理禁止にしてから書き換えてください。また、書き換え後に WAFG フラグ、RIFG フラグ、RTCIF フラグをクリアしてください。

備考 SEC, MIN, HOUR, WEEK, DAY, MONTH, YEAR の書き換えの順番に制限はありません。
 また、すべてのレジスタを設定する必要はなく、一部のレジスタのみを書き換えても構いません。

4. 35.3.2 電源電流特性 (p.998 ~ p.1001)

誤)

35.3.2 電源電流特性

(TA = -40 ~ +85°C, 1.8 V ≤ AVDD ≤ VDD ≤ 3.6 V, VSS = 0 V) (1/2)

項目	略号	条件				MIN.	TYP.	MAX.	単位	
電源電流注1	Idd1	動作モード	HS(高速メイン)モード注5	fIH = 24 MHz注3	基本動作	VDD = 3.6 V		1.7		mA
						VDD = 3.0 V		1.7		
					通常動作	VDD = 3.6 V		3.6	6.1	
					VDD = 3.0 V		3.6	6.1		
				fIH = 16 MHz注3	通常動作	VDD = 3.6 V		2.7	4.7	
						VDD = 3.0 V		2.7	4.7	
			fSUB = 32.768 kHz注4	通常動作	方形波入力		4.3	8.7		
			TA = +70°C		発振子接続		4.7	8.7		
			fSUB = 32.768 kHz注4	通常動作	方形波入力		4.7	12.0		
			TA = +85°C		発振子接続		5.2	12.0		

- 注1. VDD に流れるトータル電流です。入力端子を VDD または VSS に固定した状態での入力リーク電流を含みます。また MAX. 値には **周辺動作電流を含みます。**ただし、LCD コントローラ/ドライバ、A/D コンバータ、D/A コンバータ、rail to rail OPA(アナログ MUX 付)、汎用 OPA、ボールテージ・リファレンス、低抵抗スイッチ、コンパレータ、LVD 回路、I/O ポート、内蔵プルアップ/プルダウン抵抗、データ・フラッシュ書き換え時に流れる電流は含みません。
- 注2. 高速オンチップ・オシレータ、サブシステム・クロックは停止時。
- 注3. 高速システム・クロック、サブシステム・クロックは停止時。
- 注4. 高速オンチップ・オシレータ、高速システム・クロックは停止時。超低消費発振(AMPHS1 = 1) 設定時。**リアルタイム・クロック 2、12 ビット・インターバル・タイマ、8 ビット・インターバル・タイマ、ウォッチドッグ・タイマに流れる電流は含みません。**
- 注5. 動作モード、動作電圧範囲、CPU 動作周波数の関係を次に示します。

HS (高速メイン)モード : 2.7 V ≤ VDD ≤ 3.6 V @ 1 MHz ~ 24 MHz
 2.4 V ≤ VDD ≤ 3.6 V @ 1 MHz ~ 16 MHz
 LS (低速メイン)モード : 1.8 V ≤ VDD ≤ 3.6 V @ 1 MHz ~ 8 MHz

- 備考1. fMX : 高速システム・クロック周波数(X1 クロック発振周波数または外部メイン・システム・クロック周波数)
 備考2. fIH : 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数(最大 24 MHz)
 備考3. fSUB : サブシステム・クロック周波数(XT1 クロック発振周波数)
 備考4. 「サブシステム・クロック動作」以外の TYP. 値の温度条件は、TA = 25°C です。

正)

35.3.2 電源電流特性

(TA = -40 ~ +85°C, 1.8 V ≤ AVDD ≤ VDD ≤ 3.6 V, VSS = 0 V) (1/2)

項目	略号	条件				MIN.	TYP.	MAX.	単位	
電源電流注1	Idd1	動作モード	HS(高速メイン)モード注5	fIH = 24 MHz注3	基本動作	VDD = 3.6 V		1.7		mA
						VDD = 3.0 V		1.7		
					通常動作	VDD = 3.6 V		3.6	6.1	
					VDD = 3.0 V		3.6	6.1		
				fIH = 16 MHz注3	通常動作	VDD = 3.6 V		2.7	4.7	
						VDD = 3.0 V		2.7	4.7	
			fSUB = 32.768 kHz注4	通常動作	方形波入力		4.3	8.7		
			TA = +70°C		発振子接続		4.7	8.7		
			fSUB = 32.768 kHz注4	通常動作	方形波入力		4.7	12.0		
			TA = +85°C		発振子接続		5.2	12.0		

- 注1. VDD に流れるトータル電流です。入力端子を VDD または VSS に固定した状態での入力リーク電流を含みます。HS (高速メイン)モード、LS (低速メイン)モード時、電源電流の TYP. 値は周辺動作電流を含みません。MAX. 値は周辺動作電流を含みます。ただし、LCD コントローラ/ドライバ、A/D コンバータ、D/A コンバータ、rail to rail OPA(アナログ MUX 付)、汎用 OPA、ボールテージ・リファレンス、低抵抗スイッチ、コンパレータ、LVD 回路、I/O ポート、内蔵プルアップ/プルダウン抵抗、データ・フラッシュ書き換え時に流れる電流は含みません。
- サブシステム・クロック動作時、電源電流の TYP. 値と MAX. 値は周辺動作電流を含みません。ただし、HALT モード時はリアルタイム・クロック 2 に流れる電流を含みます。
- 注2. 高速オンチップ・オシレータ、サブシステム・クロックは停止時。
- 注3. 高速システム・クロック、サブシステム・クロックは停止時。
- 注4. 高速オンチップ・オシレータ、高速システム・クロックは停止時。超低消費発振(AMPHS1 = 1) 設定時。
- 注5. 動作モード、動作電圧範囲、CPU 動作周波数の関係を次に示します。

HS (高速メイン)モード : 2.7 V ≤ VDD ≤ 3.6 V @ 1 MHz ~ 24 MHz
 2.4 V ≤ VDD ≤ 3.6 V @ 1 MHz ~ 16 MHz
 LS (低速メイン)モード : 1.8 V ≤ VDD ≤ 3.6 V @ 1 MHz ~ 8 MHz

- 備考1. fMX : 高速システム・クロック周波数(X1 クロック発振周波数または外部メイン・システム・クロック周波数)
 備考2. fIH : 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数(最大 24 MHz)
 備考3. fSUB : サブシステム・クロック周波数(XT1 クロック発振周波数)
 備考4. 「サブシステム・クロック動作」以外の TYP. 値の温度条件は、TA = 25°C です。

(TA = -40 ~ +85°C, 1.8V ≤ AVDD ≤ VDD ≤ 3.6 V, VSS = 0 V)

(2/2)

項目	略号	条件			MIN.	TYP.	MAX.	単位		
電源電流注1	Idd2注2	HALTモード	HS(高速メイン)モード注4	f _{IH} = 24 MHz注4	VDD = 3.6 V	0.42	1.83	mA		
					VDD = 3.0 V	0.42	1.83			
				f _{IH} = 16 MHz注4	VDD = 5.0 V	0.39	1.38			
					VDD = 3.0 V	0.39	1.38			
					VDD = 3.0 V	0.25	0.71			
					VDD = 2.0 V	0.25	0.71			
			LS(低速メイン)モード注4	f _{IH} = 8 MHz注4	VDD = 3.0 V	0.25	0.71	mA		
					VDD = 2.0 V	0.25	0.71			
				HS(高速メイン)モード注4	f _{MX} = 20 MHz注3, VDD = 3.6 V	方形波入力 発振子接続	0.26		1.55	mA
					f _{MX} = 20 MHz注3, VDD = 3.0 V	方形波入力 発振子接続	0.25		1.55	
					f _{MX} = 16 MHz注3, VDD = 3.6 V	方形波入力 発振子接続	0.23		1.22	
					f _{MX} = 16 MHz注3, VDD = 3.0 V	方形波入力 発振子接続	0.22		1.22	
			f _{MX} = 10 MHz注3, VDD = 3.0 V		方形波入力 発振子接続	0.18	0.82			
			f _{MX} = 10 MHz注3, VDD = 2.0 V		方形波入力 発振子接続	0.18	0.81			
			LS(低速メイン)モード注4	f _{MX} = 8 MHz注3, VDD = 3.0 V	方形波入力 発振子接続	0.09	0.51	mA		
				f _{MX} = 8 MHz注3, VDD = 2.0 V	方形波入力 発振子接続	0.10	0.52			
		0.15		0.56						
		0.15		0.57						

項目	略号	条件						単位
	Idd3注5	STOPモード注8	TA = -40°C		0.16	0.51	μA	
				TA = +25°C	0.22	0.51		
				TA = +50°C	0.27	1.10		
				TA = +70°C	0.37	1.90		
				TA = +85°C	0.6	3.30		

- 注1. VDD に流れるトータル電流です。入力端子を VDD または VSS に固定した状態での入力リーク電流を含みます。また MAX. 値には **周辺動作電流を含みます。**ただし、LCD コントローラ/ドライバ、A/D コンバータ、D/A コンバータ、rail to rail OPA(アナログ MUX 付)、汎用 OPA、ボールテージ・リファレンス、低抵抗スイッチ、コンパレータ、LVD 回路、I/O ポート、内蔵プルアップ/プルダウン抵抗、データ・フラッシュ書き換え時に流れる電流は含みません。
- 注2. フラッシュ・メモリでの HALT 命令実行時。
- 注3. 高速オンチップ・オシレータ、サブシステム・クロックは停止時。
- 注4. 高速システム・クロック、サブシステム・クロックは停止時。
- 注5. 高速オンチップ・オシレータ、高速システム・クロックは停止時。RTCLPC = 1、かつ超低消費電振(AMPHS1 = 1)設定時。**リアルタイム・クロック 2 に流れる電流を含みます。ただし、12 ビット・インターバル・タイム、8 ビット・インターバル・タイム、ウォッチドッグ・タイムに流れる電流は含みません。**
- 注6. **リアルタイム・クロック 2、12 ビット・インターバル・タイム、8 ビット・インターバル・タイム、ウォッチドッグ・タイムに流れる電流は含みません。**

(TA = -40 ~ +85°C, 1.8V ≤ AVDD ≤ VDD ≤ 3.6 V, VSS = 0 V)

(2/2)

項目	略号	条件			MIN.	TYP.	MAX.	単位		
電源電流注1	Idd2注2	HALTモード	HS(高速メイン)モード注6	f _{IH} = 24 MHz注4	VDD = 3.6 V	0.42	1.83	mA		
					VDD = 3.0 V	0.42	1.83			
				f _{IH} = 16 MHz注4	VDD = 5.0 V	0.39	1.38			
					VDD = 3.0 V	0.39	1.38			
					VDD = 3.0 V	0.25	0.71			
					VDD = 2.0 V	0.25	0.71			
			LS(低速メイン)モード注6	f _{IH} = 8 MHz注4	VDD = 3.0 V	0.25	0.71	mA		
					VDD = 2.0 V	0.25	0.71			
				HS(高速メイン)モード注6	f _{MX} = 20 MHz注3, VDD = 3.6 V	方形波入力 発振子接続	0.26		1.55	mA
					f _{MX} = 20 MHz注3, VDD = 3.0 V	方形波入力 発振子接続	0.25		1.55	
					f _{MX} = 16 MHz注3, VDD = 3.6 V	方形波入力 発振子接続	0.23		1.22	
					f _{MX} = 16 MHz注3, VDD = 3.0 V	方形波入力 発振子接続	0.22		1.22	
			f _{MX} = 10 MHz注3, VDD = 3.0 V		方形波入力 発振子接続	0.18	0.82			
			f _{MX} = 10 MHz注3, VDD = 2.0 V		方形波入力 発振子接続	0.18	0.81			
			LS(低速メイン)モード注6	f _{MX} = 8 MHz注3, VDD = 3.0 V	方形波入力 発振子接続	0.09	0.51	mA		
				f _{MX} = 8 MHz注3, VDD = 2.0 V	方形波入力 発振子接続	0.10	0.52			
		0.15		0.56						
		0.15		0.57						

項目	略号	条件						単位
	Idd3	STOPモード注7	TA = -40°C		0.16	0.51	μA	
				TA = +25°C	0.22	0.51		
				TA = +50°C	0.27	1.10		
				TA = +70°C	0.37	1.90		
				TA = +85°C	0.6	3.30		

- 注1. VDD に流れるトータル電流です。入力端子を VDD または VSS に固定した状態での入力リーク電流を含みます。HS (高速メイン)モード、LS (低速メイン)モード時、電源電流の TYP.値は周辺動作電流を含みません。MAX.値は周辺動作電流を含みます。ただし、LCD コントローラ/ドライバ、A/D コンバータ、D/A コンバータ、rail to rail OPA(アナログ MUX 付)、汎用 OPA、ボールテージ・リファレンス、低抵抗スイッチ、コンパレータ、LVD 回路、I/O ポート、内蔵プルアップ/プルダウン抵抗、データ・フラッシュ書き換え時に流れる電流は含みません。
- サブシステム・クロック動作時、電源電流の TYP.値と MAX.値は周辺動作電流を含みません。ただし、HALT モード時はリアルタイム・クロック 2 に流れる電流を含みます。
- STOP モード時、電源電流の TYP.値と MAX.値は周辺動作電流を含みません。
- 注2. フラッシュ・メモリでの HALT 命令実行時。
- 注3. 高速オンチップ・オシレータ、サブシステム・クロックは停止時。
- 注4. 高速システム・クロック、サブシステム・クロックは停止時。
- 注5. 高速オンチップ・オシレータ、高速システム・クロックは停止時。RTCLPC = 1、かつ超低消費電振(AMPHS1 = 1)設定時。

注7. 動作モード、動作電圧範囲、CPU 動作周波数の関係を次に示します。

HS (高速メイン)モード : $2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 3.6\text{ V}$ @ 1 MHz~24 MHz

$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 3.6\text{ V}$ @ 1 MHz~16 MHz

LS (低速メイン)モード : $1.8\text{ V} \leq V_{DD} \leq 3.6\text{ V}$ @ 1 MHz~8 MHz

注8. STOP モード時にサブシステム・クロックを動作させる場合の電流値は、HALT モード時にサブシステム・クロックを動作させる場合の電流値を参照してください。

備考 1. f_{MX} : 高速システム・クロック周波数(X1 クロック発振周波数または外部メイン・システム・クロック周波数)

備考 2. f_{IH} : 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数(最大 24 MHz)

備考 3. f_{SUB} : サブシステム・クロック周波数(XT1 クロック発振周波数)

備考 4. 「サブシステム・クロック動作」以外の TYP.値の温度条件は、 $T_A = 25^\circ\text{C}$ です。

発行日 : 2023年1月19日

注6. 動作モード、動作電圧範囲、CPU 動作周波数の関係を次に示します。

HS (高速メイン)モード : $2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 3.6\text{ V}$ @ 1 MHz~24 MHz

$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 3.6\text{ V}$ @ 1 MHz~16 MHz

LS (低速メイン)モード : $1.8\text{ V} \leq V_{DD} \leq 3.6\text{ V}$ @ 1 MHz~8 MHz

注7. STOP モード時にサブシステム・クロックを動作させる場合の電流値は、HALT モード時にサブシステム・クロックを動作させる場合の電流値を参照してください。

備考 1. f_{MX} : 高速システム・クロック周波数(X1 クロック発振周波数または外部メイン・システム・クロック周波数)

備考 2. f_{IH} : 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数(最大 24 MHz)

備考 3. f_{SUB} : サブシステム・クロック周波数(XT1 クロック発振周波数)

備考 4. 「サブシステム・クロック動作」, 「STOP モード」以外の TYP.値の温度条件は、 $T_A = 25^\circ\text{C}$ です。

以上